小牧・長久手の戦い
～白山林の戦い～

小牧・長久手の戦いって？

本能寺の変によって信長が討たれると、だれが後継者となるかという争いがおきました。羽柴秀吉（のちの豊臣秀吉）は、本能寺の変を起こした明智光秀を討つなど力を示し、 織田家の武将の中で地位を確かなものにしていきました。そんな秀吉に、危機感をつのらせた信長の次男・信雄は、徳川家康に同盟を求めます。そして、ついに後の天下人である秀吉と家康が直接争った唯一の戦い「小牧・長久手の戦い」が天正12（1584）年3月にはじまります。

犬山と小牧に陣を構えてにらみ合いとなった両者ですが、秀吉は状況を変えるため、別動隊に家康の本拠地・岡崎を攻めて混乱させようと考えます。しかし、家康はその動きを察知し、その後を追いました。そして、ついに現在の長久手市で両者が激突し、織田・徳川が秀吉方に勝利しました。しかし、その後の他の地域での戦いで信雄は徐々に不利になっていきます。11月には信雄が秀吉と単独で和睦したため、家康も兵を引き、小牧・長久手の戦いは終結します。

白山林（はくさんばやし）の戦い

長久手の戦いに至るまでには、いくつかの戦いがありました。中でも尾張旭市が舞台となったと考えられている「白山林の戦い」は、長久手の戦いに続く一連の戦の最初のものであり、戦いの火ぶたが切って落とされた地とも言えます。

4月9日の早朝、岡崎へと向かう秀吉方の最後尾にいた総大将・三好信吉（後の三好秀次）の隊は、白山林（現・尾張旭市）で休憩していました。そこへ、小幡城（現・名古屋市守山区）からやってきた家康方の先発隊が追いつき、急襲します。不意をつかれた三好隊は総くずれとなりました。三好信吉は、逃げようとしましたが馬をなくしており、これを見た木下勘解由利匡（きのしたかげゆとしただ）が馬を貸して逃がしました。勘解由利匡は、兄と共に奮戦しましたがあえなく戦死します。現在も長久手市に勘解由塚が残っています。

三好隊の前にいた秀吉方の隊（堀隊）は、白山林からやってきた家康方の先発隊を桧ヶ根（現・長久手市）で迎え撃ち、勝利しますが、家康の本隊がやってきていることに気づくと戦線を離脱しました。そして、三好隊の敗北を知った秀吉方の先頭の隊（池田・森隊）が、現在の日進市から引き返してきて、長久手で家康方の本隊と戦うことになります。このように、白山林の戦いをきっかけとして一気に長久手の戦いへとなだれこんでいきました。また、家康方が白山林で勝利したことは、その後の戦いに大きな影響を与えました。

白山林の面影を残すものは、時代の流れとともに少なくなりましたが、矢田川の北から望むと今でも小高い丘であることが分かります。当時、この地を訪れた人たちも丘を見上げたことでしょう。また、「南新町白山」という町名や「白山公園」「白山道」などに「白山」の名を残しています。



▲矢田川北岸から
白山林付近をのぞむ

より詳しい解説は、市ホームページへ

市内のゆかりの地

●白山社跡（はくさんしゃあと）・本地ヶ原神社（ほんじがはらじんじゃ）

白山林という地名の由来になったと思われる白山社は、明治44年に一之御前神社に合祀されました。平成元年、南新町白山の古墳ではないかと思われた高まりを発掘調査したところ、「元白山神社」と刻まれた石碑が発見されました。発掘された場所は古墳ではなく白山社があった場所で、石碑は白山社がなくなるときに建てられたものではないかと考えられています。現在、白山社跡にはその面影はありませんが、発掘された石碑は、本地ヶ原神社の鳥居横で見ることができます。また、本地ヶ原神社の境内には、「兜神社」という白山林の戦いで亡くなった方を祀った祠もあります。これは、昭和45年(1970年)の本地ヶ原神社創建時に作られたものです。



▲「稲葉村絵図（白山社部分）

●洞光院（どうこういん）―棒塚（ぼうづか）―

小牧・長久手の戦いの時、新居村の棒の手・無二流の師範である水野吉平と禰宜の谷口菊三郎が、秀吉方の軍に食料の調達を免除してもらおうと頼みにでかけたまま戻らず、探しに行った村人が吉平の亡骸を見つけたという言い伝えが残っています。

村人たちは、吉平を弔う塚を八瀬の木（今の城前町）のあたりに作り、棒塚と呼びました。現在は、その塚はありませんが、石碑が洞光院に残っています。

●良福寺（りょうふくじ）
―織田信雄書状（おだのぶかつしょじょう）―

小牧・長久手の戦いで家康と手を結んだ織田信雄が、天正10年8月に良福寺の寺領を安堵した文書が残っており、市の文化財に指定されています。

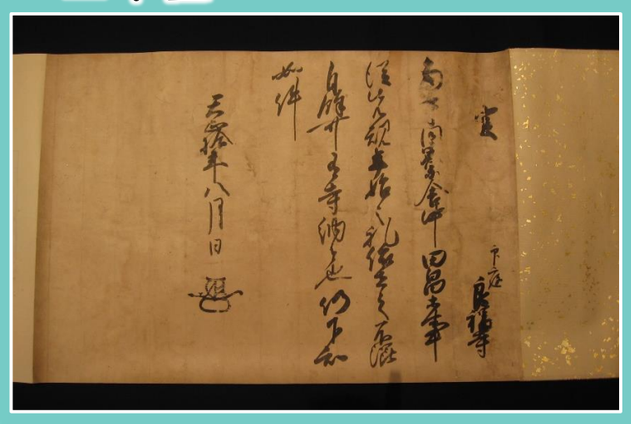
信雄は、天正10年7月に尾張を相続しました。これにより、南伊勢から清須に本拠を移し、尾張の家臣団や寺社と新たに知行関係を結びました。天正10年８月を中心に多くの安堵状が残っています。

尾張旭市教育委員会　文化スポーツ課

良福寺
―織田信雄書状―



▲本堂



※書状は非公開

▲「織田信雄書状」

洞光院―棒塚―



▲本堂



▲棒塚の碑

番外編―賤ヶ岳の戦いゆかりの人―

毛受勝助家照



柴田勝家（しばたかついえ）の家臣（かしん）である毛受勝助家照（めんじょうしょうすけいえてる）は稲葉村（いなばむら）（現・尾張旭市）の出身だと伝わっています。小牧・長久手の戦いの前に羽柴秀吉（はしばひでよし）と柴田勝家が戦った「賤ヶ岳（しずがたけ）の戦い」では、劣勢の中、敵をひきつけて戦い勝家が逃げる時間を稼いで討ち死にしました。尾張旭市文化会館の前には毛受勝助家照の像が建っています。

本地ヶ原神社



▲左の石柱
元白山神社の碑



▲手前の小祠
兜神社